



奉納 水墨画家 飯塚洋三氏模写 鳥獣人物戯画襖絵



発行所

〒010-0946

秋田市川尻総社町14-6

総社神社

<http://sosha-j.jp>

公の祈りを継承する神宮

日本文化の根源を伝え続ける

総社神社 宮司 川尻 孝紀



日本の神々の中で、最も貴い神徳を持つ

神様は「天照大御神」とされています。伊勢の神宮の御祭神です。

皇室の祖神として皇祖と称されます。

そして歴代の天皇陛下を皇宗と称します。神社界では神宮を本宗と仰ぎ、そのご神徳の下に全国各地八百万の神々をお祀りしています。

神社のお祭りは農耕儀礼に関するお祭りが主となって営まれてきました。所謂弥生の文化です。

神宮の祭りで最も重要且つ神聖な祭りは「神嘗祭」です。秋の新穀を神に捧げる祭りです。

稲作は我々の生命を支える重要な作物です。農耕は、人と神との共同作業です。自然は神の神徳、即ち恵みです。人間の努力と神々の恵みによって我々の生活は成り立っています。

います。食に限らず、住も衣も同じです。

神宮では稲をはじめ神様への供物や衣服、建物など全て自前で供給されます。その大更新が二十年に一度繰返される大祭「式年遷宮」です。そして天皇陛下の御代変りに行われる「大嘗祭」も特別に占定された地域からの新穀を天照大御神に捧げ、天皇陛下自らも召上られる神聖な祭りです。

第四十代天武天皇が定められた式年遷宮が歴代欠くる事なく連続と千三百年以上も続けて行われてきたことは世界に類を見ない奇跡的な文化の営みです。

同時に現代に生きる我々の生活文化の根源が神宮では現在も祭りという進行形で営まれています。誠にありがたい極みです。

常若の伝統文化が現在にも花開き更に前進を続けているのです。

我々の豊かさは神々の神徳と弛みない人々の努力の賜物であることを今こそ省みる必要があると思えます。

祭礼行事曆

平成二十九年元日〜九月

一月

元旦 歳旦祭

九日 (成人の日)どんと祭
青年会・敬神婦人会

十五日 餅つき行事奉仕

必勝祈願祭

十九日 月次祭

二十日 青年会新年会 丸源

二月

三日 節分祭豆まき神事

十一日 建国記念の日
奉祝秋田県大会

十九日 祈年祭併せ月次祭

二十五日 交通安全協会川尻支部
安全祈願祭

三月

十九日 月次祭

三十一日 境内清掃打合せ会議

四月

四日 崇敬会理事会

八日 境内清掃

十五日 青年会総会

十六日 ボーイスカウト秋田
第31団育成会総会・上

進式

十九日 月次祭・崇敬会総会

二十九日 昭和祭・第二十六回
秋田県出身特攻隊慰霊祭

五月

二日 神社総代会総会

十三日 第二回境内清掃

十六日 敬神婦人会清掃奉仕

敬神婦人会総会

十八日 春季例祭宵宮祭

十九日 春季例祭当日祭

二十日 例祭片付け作業

二十五日 山王中学校清掃奉仕

二十六日 山王中二年生職場体験

六月

九日 川尻小学校ふるさと
集會にて(雅楽演奏)

十日 第三回境内清掃

十日 氏青東北大会 宮城県

十一日 秋田県鳶土木連合会安
全祈願祭

十七日 青年会例会

十八日 鹿嶋祭り(西表町・昆沙
門町・肝煎町)

十九日 月次祭

二十四日 第二十二回刑務所安全
祈願祭(秋田刑務所)

三十日 夏越の大祓式

七月

八日 第四回境内清掃

十九日 月次祭

二十二日 青年会例会

八月

五日 全国氏青協議会全国大
会(茨城県)

六日 山王中境内清掃奉仕

十二日 第五回境内清掃

十七日 早駒神社例祭

十九日 月次祭・川尻の夏祭り

九月

十日 第六回境内清掃

十九日 月次祭

十九日 飯塚洋三画伯襖絵奉納

二十三日 青年会例会



十月以降の祭礼行事予定

十月

四日 観月祭 雅楽演奏

十八日 秋季例祭宵宮祭

十九日 秋季例祭当日祭

十一月

十五日 七五三参り

十九日 月次祭

下旬 干支大絵馬揮毫

十二月

第一日曜 干支大絵馬奉納式

下旬 煤払い

十九日 月次祭

神社大忘年会

二十八日 餅つき行事

同青年会・敬神婦人会
奉仕

大晦日 師走大祓式



一期一会の敬神の旅に参加して



総社神社総代
芳賀 龍平

昨年(平成二十八年)の十一月十四日・十五日、青森県つがる市にある「高山稲荷神社」に参拝する機会を得ました。高山稲荷神社を取り巻く地域の歴史や由緒・文化に興味・関心が高まる中での敬神の旅でした。

グリーン濃淡で白神山地を感じさせる「新型リゾート」しらかみ『ぶな』号に乗り、世界自然遺産白神山地をはじめ、千畳敷や日本海の荒々しい波に洗われる岩窟等、風光明媚な日本海を走る五能線で一路五所川原市を目指しました。

「高山稲荷神社」は五所川原駅から広い津軽平野を車で横切り、日本海側を目指しておおよそ四十五分程走らせると、赤い大鳥居が見えてきます。

一行十名は工藤宮司ご夫妻に温

かく迎えられ今晩お世話になる参集殿で休息した後、五穀豊穡、海上安全、商売繁盛の神様として青森県内第一の霊験あらたかな神殿に向かいました。

鎮座しているお社は、屏風山の丘の上であり、立ちふさがる石段を一つ二つと数えながら「ハア・ハア」息を切らしながら上りましたが、気が付くと石段の数を数えていませんでした。鎮守の杜の木立の間から遠くは岩木山や十三湖近くに日本海を見渡せました。

お社には力強く迫力ある、しかもきめ細やかな美しさを感じさせる見ごたえのある貴重な彫刻が施されています。そのお社の神殿で厳かなる雰囲気のもと正式参拝を行いました。

屏風山の丘から庭園に下ると、急に視野が開けた広場に出ます。これまで見たことのない光景に度肝を抜かれました。多くの方々が「怖い」「怪しい」「薄気味悪い」といった感想を持つそうですが、私にとつてはとても美しい景色で心が洗われる思いがしました。

朱塗りの鳥居が一メートル間隔でびっしりと並んでいるのです。この日本庭園自体も素晴らしいのですが、この真つ赤な鳥居の隊列、千本鳥居はとても幻想的インパクトがあり、一見の価値があります。この千本鳥居を潜り小高い丘から一望する眺めは珍百景として扱われ、かつてテレビ放映された程見事な景色でした。

夕食・懇親会が宿泊する参集殿にて、「高山稲荷神社」の工藤宮司様をお迎えし行われました。工藤宮司様から「地域の歴史、文化等について、また、地元・遠方の方々の力もあって神社は支えられ発展してこれたことなど」を伺い、和やかな雰囲気の中、有意義な時間を過ごすことができました。ありがとうございました。

参考まで

五所川原市にて：駅近くの「立ねぶたの館」見学。

高さ二十二メートルの巨大立ねぶたを見学できます。また、ハイビジョンの大画面と迫力のサウンド

で祭りの臨場感を味わえます。

弘前市にて：市立郷土博物館にて「福士幸次郎展」見学。

福士幸次郎は、大正時代の口語自由詩の詩人です。詩集を多く出され、大正から昭和にかけて、伝統主義を提唱して運動をすすめ、多くの人に影響を与えています。



高山稲荷神社参拝



私の神事・行事の思い出



総社神社総代
野田 安雄

神社の行事は月次祭が年十二回、春秋の祭り、正月行事、その他総代会では全国・全県・中央支部神社総代会等大変大きな組織団体であることを知り認識を深めました。

また、氏子青年会・敬神婦人会の組織もあります。

神様事については、県南部農家多数兄弟の末っ子に生まれ、色々家の手伝う事が多い役目があり思い出があります。先ず、神棚・仏壇にお供えして拜んだことを思い出します。

正月は子供にとり、一番楽しみな行事でした。さらに小正月行事では作業小屋の土間に藁蓆わらむしろを敷き、臼を逆さまにして注連飾りを巻き、真ん中に鏡餅を置き、犬っこ市で準備した男犬二匹と女犬八匹を鏡餅の中心に飾り付けました。男犬の飾りは首輪とタスキがカラフルな色使い

で、とても元気な感じに見えたものでした。

犬っこは、夜盗賊が来たなら一斉に吠え出すと聞いていたので、本当に吠えるかどうか子供心に聞いてみたい思いがありました。

その他、農家には一年間使った農具に感謝する行事があり、ローソクを灯して拜んだりしました。

また、雪中田植えは、農家の小正月行事として部落全戸で行われていました。小さな藁束わらなばに大豆の殻付きの枝を一本結び付け、それを二十束準備して、屋敷内東の方向に田圃に見立てた場所を設け、苗代わりに用意した藁束を手前に五株植え、奥の方に順に植え付けて、正月料理と御神酒を供えて、家族そろって豊作祈願を行いました。

実家の長兄は、昭和四十五年頃まで行いましたが、他では世代交代が進み昭和三十年代でほとんど見る事ができませんでした。当時は珍しい小正月行事として新聞報道もされました。その後、北秋田市青年部の方々による雪中田植えの行事が報道され現在も続けられている

様子を見て感動しました。

昨年六月増田中学校の同級会を開催する運びとなり、私が担当となり秋田市内の見学を行いました。

最後に、七年後創祀千三百年祭を迎える、地域の歴史ある氏神様、総社神社で、男性五名・女性五名が傘寿祝いのご祈祷を受け、今後の活躍と健康を誓い合いました。

また、参加者一行は神社の鳥居を潜った時、けやきの大木と大絵馬に目を惹かれ、長い参道の右手に子供等の集まる遊園地等があり、神社としての環境が整っていると称賛されました。さらに、地域の夏祭りやグラウンド・ゴルフ開催等もあることなども知っていたいただき、正に地域の氏神様として誇りに思いました。



小原流いけばなの道



小原流秋田支部
越後屋知泉(知子)

樹々にかこまれ歴史ある総社神社の静かなたたずまい、訪れるたびに清々しい気持ちになります。

五月春季例祭宵宮祭「まつりのいけばな展」に献花させていただいたのが縁で平成二十一年からは「夏休みいけばな教室」で毎年お世話になっております。

このような機会を与えていただきまして心より感謝申し上げます。小原流は十九世紀末、小原雲心が「盛花」という新形式のいけばなを考案して近代いけばなの道を開いたことに始まります。

盛花は口の広い器(水盤)に材料を「盛る」ように花を展開させるもので、それまでのいけばなの線の動きを主にした構成にくらべ、面的な広がり強調したところに特徴があります。



小原流いけばな展

今ではあたりまえの水盤と剣山を使ういけばなは小原流が始めたものです。

創流百二十年、その時代の生活様式の変化にもなつて盛花を基本とし、現代空間にふさわしいいけばなを生み出してきました。

一般財団法人として全国に一四八支部、海外五九支部があります。

小原流秋田支部は、昭和三十年三月創設され七十周年に向かって日々研鑽に努めております。

「夏休みいけばな教室」では、日頃植物に触れる機会の少ないこども

今から二年前、神社大広間のふすま八枚を絵で飾りたいとお話を受けておりました。

いろいろと思案のうえ、現存する四大絵巻の一つである「鳥獣人物戯画」からよく知られている場面を、襖絵として完成しました。



飯塚 洋三
水墨画家

鳥獣人物戯画との出会い



たちに、植物に触れ合い、植物の美しさを一人でも多くの方に体験していただきたいと思っています。

生活のなかで、植物に形を与え生命を与えるいけばなの素晴らしさを未来へと伝え、地域文化に少しでも貢献して参りたいと願っております。

八十歳の傘寿をむかえた四年前、終活は意地でも未だ早いと思つたけれども、身の回りの整理はしなればと、現役時代の書誌や記録・年賀状・名刺まで断捨離したものの、何か空しいものを感じました。

そんなとき、趣味の水墨画の集大成にと考えたのが鳥獣人物戯画です。若い頃、日本画の受講での提出課題が鳥獣戯画の模写でした。

それは、古典の魅力と運筆の練習が目的で、何度も何枚も筆をとり錬成したものです。

鳥獣人物戯画は千年前、鳥羽僧正覚猷(一〇五三―一一四〇)の筆と伝えられています。

さる・うさぎ・等十一種類の鳥や動物をたくみに擬人化して、当時の風習や行事を躍動的に描き、漫画の原点とも言われています。

思いついたら早速と、図書館で手にした十二メートル近い絵巻の資料を参考に準備をすすめ、二〇一五年(平成二十七年)正月五日から描き初めて同年四月、この国宝を所蔵している京都の高山寺に参詣し、嬉しいことに絵巻を開いた最初の部

分に、朱印を頂いてきました。

奇しくも、この年東京国立博物館で特別展が開催されたことも感激でした。

秋季例祭の前に、お約束の襖絵を私なりに表現できたことを誇りと思っております。

どうぞお参りの際、是非ご覧くださいます。



奉納襖絵 鳥獣人物戯画

**第30回全国健康福祉祭あきた大会
ねんりんピック秋田2017
総合開会式奉仕活動**



隊長 **阿部 浩行**

日本ボーイスカウト秋田県連盟

秋田第31回ベンチャー隊



各旗保持しての入場行進

平成二十九年九月九日秋田県立中央公園、県営陸上競技場で行われた総合開会式においてボーイスカウトは、式典の各旗入場の大会名横断幕・各旗保持を担当しました。
当日は良く晴れていて、むしろ暑いぐらいの天候の中行われました。

ボーイスカウト、ガールスカウト併せて31名の奉仕活動となりましたが、当31回からはボーイ隊五名、ベンチャー隊七名、ローバー隊一名の合計十三名が参加しました。
式典前アトラクションに続き、秋田市立秋田商業高等学校のマーチングバンドと共に各旗が堂々と入場しました。

この総合開会式各旗入場においては、事前リハーサルが八月・九月と合計二回行われていました。

練習当日は夏真っ盛りの天候の中、当初は不安そうな表情もあったスカウトたちでしたが繰り返し練習したおかげか、本番では十分練習の成果を感じることができるような旗の保持・行進の姿でした。

わずか三分程の奉仕活動でした

が、出場スカウト全員にとって忘れられない経験になったと思います。
今回の経験をこれからの活動に生かせるよう各自には期待したいと思えます。



奉仕スカウト等の集合写真



年中行事

- 一月 歳旦祭・どんと祭
- 二月 節分祭・厄祓い
- 五月十八日 春季例祭宵宮祭
- 五月十九日 春季例祭当日祭
- 六月三十日 夏越大祓式
- 十五夜 観月祭
- 十月十八日 秋季例祭宵宮祭
- 十月十九日 秋季例祭当日祭
- 十一月十五日 七五三参り
- 十二月上旬 大絵馬奉納式
- 十二月下旬 煤払い式
- 十二月下旬 餅搗き
- 十二月大晦日 師走大祓式
- 毎月十九日 月次祭

平成二十九年度 総社の杜小中学生俳句・川柳大会入賞作

☆優 秀

- 我が街の歴史をつなぐ総社の杜 (山王中二年 大澤 愛子)
 - 総社の木緑の屋根がゆれている (山王中一年 古山 夏乃)
 - 風の音総社の木々がおどりだす (山王中一年 畠山 美弥)
 - 夏の夜総社の神がしめくくる (山王中二年 桜庭なのは)
 - 総社の木長い歴史を物語る (山王中二年 米谷 光翼)
 - 夏祭り笛を楽しむ総社の木 (川尻小五年 大淵 実愛)
 - 夏祭り総社の神がおりてくる (川尻小五年 菅原 海)
 - 神様が四季を楽しむ総社かな (川尻小六年 渡辺 菜月)
 - いつまでもみんなを守る総社の木 (川尻小六年 柴田カルア)
 - 神々が祭りばやしでおどる夜 (川尻小五年 鈴木 姫依)
 - 食の秋さんまのにおい家中に (旭南小六年 高橋 良斗)
 - 秋の夜月のかがやききれいだな (旭南小六年 高橋 希)
 - 風そよぎ稲穂がゆれるおだやかに (旭南小六年 米川 達也)
 - コスモスが少しずつだけ庭にさく (旭南小六年 城石 楓)
 - たんぽぽのわた毛が風に飛んでいく (旭南小六年 真坂 優花)
- 以上十五句

☆佳 作

- 蝉時雨総社の杜のシンボルだ (山王中一年 石川 遥大)
 - 総社の森四季を綺麗に写しだす (山王中一年 能登屋慶士)
 - 総社の木いやしの風をふかせてる (山王中一年 小松 朝陽)
 - 向日葵が暑さに負けずに笑ってる (山王中一年 齋藤 麻夏)
 - 夏祭り雅楽が祭りを盛り上げる (山王中一年 高橋 初実)
 - セミの声総社の森にあふれだす (川尻小五年 中山弥優姫)
 - そうしやの木あの手この手でぼくをよぶ (川尻小五年 小林 章真)
 - 秋の杜落ち葉の海で泳ぎたい (川尻小五年 橋本 啓汰)
 - 総社の木風でゆっくりゆれている (川尻小六年 高橋 遼)
 - 秋になり総社の木々はおしゃれする (川尻小六年 荻原 煌)
 - でかすぎてだれもおどろく神社です (旭南小五年 藤谷 康司)
 - 総社の地神さま祭る木たちかな (旭南小五年 安藤 愛知)
 - 夏休み神社でセミが歌ってる (旭南小五年 工藤 風太)
 - 神社には緑がたくさん涼しいな (旭南小五年 鎌田 紗名)
 - 思い出と総社神社で夏過ごす (旭南小五年 赤根谷月美)
- 以上十五句

氷原帯秋田支社長 企画同人 菅原孤秋 選

全応募作品五七四点から優秀作十五句・佳作十五句を本紙上に発表掲載致しました。今年も、充実した大会となりました。児童・生徒の瑞々しい感性が光る素晴らしい作品がそろいました。地域の多くの皆様にご鑑賞いただけましたら幸いに存じます。

神道の知識 いろいろ

●三大神勅(日本書紀)

法律命令以外で、天皇陛下の国民に対する意思表示をされる公文書を詔勅と言います。

詔勅はミコトノリとも言われ、天皇の『御言を宣る』の義です。

我が国最古の歴史書で初の正史として編纂されたのが『日本書紀』(七十二〇)です。その中で神代卷の天照大御神・高御産靈神の神勅が三大神勅といわれ左記の神勅です。国史の淵源とも言われています。

●天孫降臨の神勅

「豊葦原の千五百秋の瑞穂国は、これ吾が子孫の王たるべき地なり。就きて治らせ、行矣。寶祚の隆えまさんこと、當に天壤と窮りなかるべし。」

大意「この豊葦原の瑞穂の国は、わが子孫が代々天子たるべき国である。なんち皇孫この国に君臨して、天の下をしろしめせよ。そうすれば皇位は永遠に彌や榮えて、天地と共に窮まるところがないであろう。」

●齋鏡齋穀の神勅

「吾が兒、この寶鏡を視まさむこと、まさに吾を視るが如くすべし。共に床を同じくし、殿を供にして、以て齋の鏡となすべし。また勅して曰く、吾が高天原に所御す齋庭の穂を以て、また吾が兒に御せまつるべし。」

大意「わが子孫たるものはこの寶の鏡を見ることが、ちようど吾(天照大御神)を見るが如くなされよ。そして天子と同じ宮殿の中で、いつきまつる神體となされよ」更にまた『わが高天原において神々の聞召す齋庭の稲穂は、国民の食いて生くべきものであるから、広く国民に頒け与えて、大切にするように教え導かれよ、またわが兒にも、之を倣わせるであらう』と宣せられた。

●天孫奉齋の神勅

「吾は即ち、あまつ神籬及びあまつ磐境を起し樹て、まさに吾孫のために、齋いまつらん。汝、天兒屋命、太玉命、葦原の中国にあま降りて、また吾孫のために齋いまつれ。」

大意「いま吾は、祭場をと、のえ神霊の籠もるひもろぎを供えて神

をまつり、皇孫の彌や榮えんことを祈るであらう。汝等、天兒屋命や太玉命たちも、この神靈憑依のひもろぎを捧持して、瑞穂国へ随降し、また皇孫のために、その幸福と繁栄とを祈るようにしなさい。」

以上の神勅が歴代天皇のこの国を治められる淵源となりました。

我が国が瑞穂の国として永遠に榮えてゆくことを国民と共に祈りたいと思います。

お知らせ

☆総代委嘱

佐藤宗春 山王六丁目在住

平成二十九年四月一日就任

☆イラスト

本号のイラストは、水墨画家「飯塚洋三氏」にご揮毫いただきました



あとがき

社報第四号をお届けします。過日、孫のバスケット全国大会応援のため沖繩県的那覇市と沖繩市を訪ね友人とも会ってきました。

沖繩の今年の夏は台風の上陸はなかったが連日猛暑続きで雨も殆ど降らず農作物にとっては大きな打撃だったとのことでした。

山王中の男子バスケットは決勝トーナメントで惜しくもベスト十六で終わってしまいましたが、その帰り道に大きな収穫を得て帰ってきました。

それは那覇市の大会会場の直ぐそばに沖繩県護国神社があつたので、参拝し神職に護国神社の歩みを伺い境内を散策できたことです。

よそには見られない参道脇の平和像や傷痕軍人夫婦像等は平和を願う沖繩ならではの人心の表れであり強く心を打たれました。

この神社の創建は昭和十一年で御祭神は十七万七千九百二十二柱であり、秋田県護国神社の三万七千八百四十一柱と比べても沖繩戦の悲惨さを大きく物語っています。

戦後七十二年平和な日本がいつまでも続くように祈っています。

(編集委員長 上村 敦記)